

## 地域観光懇談会 開催結果

### [西尾張地域]

- 1 期 日：平成 21 年 11 月 11 日（水）
- 2 場 所：愛知県自治センターB会議室
- 3 出席者：尾張北部・西部、海部地域各市町村の推薦による者（各市町村 1 名、14 名出席）
- 4 内 容：観光振興基本計画（スケルトン）を提示し、次のような意見を聴取
  - 観光振興基本計画において、観光産業を取り上げてあるのは後押しになる。着地型旅行に取り組んでいるが、全国的に見てもまだまだである。海外旅行に行っても日常の良いものを見てくることが多い。新しいものを作る必要はない。
  - 「産業としての観光」という発想はすばらしい。ただ、振興・育成はまだこれからである。
  - 木曾川の自然を大事にする必要がある。たくさんの自然が残っており、世界遺産クラスである。水との戦いをPRしてもよい。
  - かつて鉄道省が日本八景のアンケートを行い、その中で、川を中心に尾張一円が選ばれたことがある。この地域は良いものを持っている。
  - おもてなしについては、観光ボランティアガイドはできると思うが、市民はどうか。
  - 小中学生向けのおもてなし教育は、教育委員会との連携が課題である。
  - 自分たちの街を、まず住民に知ってもらおうと活動している。その上で来訪者に広げていこうと、あまり大きなことは考えず、地道に活動している。
  - セタまつりを通じての協力で、市とボランティアとの間が近くなった。

### [知多地域]

- 1 期 日：平成 21 年 11 月 11 日（水）
- 2 場 所：愛知県知多総合庁舎B会議室
- 3 出席者：知多地域各市町の推薦による者（各市町 1 名、10 名出席）
- 4 内 容：観光振興基本計画（スケルトン）を提示し、次のような意見を聴取
  - すべて大きな目線でものを見ており、小さいところをどのように盛り込むかである。

- 計画は上から目線しかない。地元の動きを盛り込むべきである。
- この計画には女性の視点がない。女性には食べ物、花、体験が必要である。例えばガーゼ染め、簡単に染めることができ、チョイ体験に適している。
- 東アジアとか海外ではなく、まずは日本人たちに知ってもらう必要がある。
- 基本計画はカスタマー、ターゲットをどこに絞っているのか。東アジアなのか、日本なのか、男なのか、女なのか、年齢層はどうなのか、明確にすべきである。また、競合相手をどこかに設定すべきである。
- 観光事業者のイノベーション支援については、イノベーションはリスクが高いため、100%補助が必要である。
- 南知多町と美浜町には100軒以上の宿泊施設があり、観光圏のために「観光大学」という勉強会を行っており、支援してほしい。
- 県全体の観光を考えるのならば、点を繋げてコースを作ることである。1日、2日、3日コースを作るべきである。1年を通して来てもらえる観光資源が必要である。
- 地元企業のショールームと工場があるが、これから工場を誘致する際は観光を意識した施設にすべきである。
- おもてなしの基本は、町の人たちが観光旅行者に気さくに声をかけていくことである。これを通年で実施することが難しい。
- おもてなしも、やりすぎはよくない。まずは地元の人たちが観光客を受入れる気持ちが必要である。
- 観光ボランティアガイドであるが、「質の高い」とはどういうことか。ガイドには説明させていただくという態度が重要であり、自らの知識を披露するのではなく、豊富な知識の中から観光旅行者に聞かれたことだけ、きちんと説明する、ニーズに沿って案内することが重要である。
- 基本計画には、ハード、ソフトいろいろ記載されているが、実現するに当たって、費用はどこが負担するのか、明確にすべきである。
- 三河湾と伊勢湾という地域になっているが、知多半島は知多半島であり、三河湾とは区別すべきである。

- 基本計画は大まかにし、実施計画で詳細にすることである。
- 地元では 10 年前から地域再生計画、チャレンジプラン、観光圏計画などずっと検討してきており、我々も最初から加わっている。しかし、県や市町村は、頻繁に異動で職員が替わり、ゼロからのスタートになる。行ってきたことが人から人へ積み重なるようにすべきである。